

サビエル生誕五百年

# 巡礼の道

藤屋 倪士  
(下松市幸ヶ丘)

## 高齢化社会をどう生きる （人生の狭間で①）

聞などは今のがいかに高齢化社会であるか報道していた。

日本の総人口の二六・八%、つまり四人に一人強が六十五歳以上というのは大変な数字である。ちなみに自分の年齢の七十五歳以上でも一二・九%を占める。長寿の女性では十人に一人が八十歳以上というから高齢化社会であると改めて自覚する。

立たしく思っていた。  
しかし、今年の敬老の日には、市から敬老祝い金が届けられ、自治会や所属教会からも記念品をもらつた。祝つてもらうのだから喜ぶべきであるが「老いる」ことは衰えることに直結しており、何か複雑な気持ちになる。

月以上入院したこと。医者は高齢になるとよくなることと言う。

ジを作つて下  
に祝つてもら  
難いことであ  
中で私が右手使  
るのが銀杯。  
らは厚生労働  
面から銀メツ  
カ…失礼か々  
が、こんな形ま  
はやめても良  
個人的に思う

さり、盛大  
うつた。有り  
る。写真の  
に持つてい  
確か来年か  
下さうた方に私がお  
下さいなかつたの  
もしていなかつたの  
つかりとした「調  
ようは有り難うご  
ました。やつと百歳  
生になると  
もしれない  
もじれい  
的記念品  
いのではど  
も祝いの最後に集ま  
了。下さうた方に私がお  
下さいなかつたの  
もしていなかつたの  
つかりとした「調  
ようは有り難うご  
ました。やつと百歳  
生になると  
りました。これから  
当に歳を取ること、  
つていきます」と話  
のに驚く。

まつて とは改めてすごいと思  
お礼の う。百歳は「紀寿」とも言  
予定 い、まさに一世紀を生き  
にし抜いたことを寿ぐのだ。  
でき とはいえ、先日、義弟  
ざい に電話で義父のことを  
にな 聞くと、もう祝宴のこと  
頑張 言う。誰もが老いれば自  
した 分のことも段々にでき  
なくなる。建前ではなく

二ヵ月間の一人暮。しかし、やがてどちらかが帰天すると、残った方は一人暮らし。今回はその予告編とも言える。老いるということが重くのしかかる。

そんな時、妻の父親が百歳になり、国、県、市から記念品を贈呈したい。という知らせが届いた。義父は義弟の住む宇部市の有料老人ホームに入っている。わざわざ県か

とにかく重い気持を  
きた。今までの敬老の  
日の九月十五日に長田  
が待望の赤ちゃんを授  
かる。結婚して八年目の  
慶事と、義父の百歳の慶  
事とが重なったのだ。五  
歳を迎えた義父からな  
るとひ孫。命が継承され、  
一世纪を生きた重さ  
が伝わってくる。

A man in a dark suit and tie stands smiling in front of a massive, multi-tiered birthday cake. The cake is covered in red and white balloons and features the Japanese text "祝 100歳 でとうございます" (Happy 100th Birthday) written across its surface. The background shows a festive indoor setting.



義父の100歳の祝い